

# 小学校6年・外国語科・This is my town.(3)話すこと[発表]ウ①

静岡市提供

## 育成を目指す資質・能力

静岡市に初めて来た外国からの観光客に、静岡市に来てよかったと思ってもらえるように、情報を整理し、地域のよさや自分の考え、気持ちなどを含めて、静岡市の魅力を英語で話すことができる。

## ICT活用のポイント

- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況を「静岡市に初めて来たALTに、静岡市に来てよかったと思ってもらえるよう、静岡市の魅力を英語で伝える」と設定し、児童が自分の発表を見直したり、友達の発表を見て参考にしたりするためにICT端末（カメラ機能、学習支援ソフト等）を活用する。
- ・児童が自らの学びを振り返り、自分の学びに生かすことができるように、ICT端末（表計算ソフト等）を活用する。

指導者によるSmall Talkや指導者とのやり取りから、本単元のゴールを理解し、単元の見通しをもつ。

ALTやGETのSmall Talkから、施設名や静岡市の特色、町の様子やその伝え方を知り、慣れ親しむ。

自分たちの考えた静岡市の魅力を英語で伝え合い、友達の発表を視聴することで、自分の発表をよりよくしていく。

板書や教材を参考に写真の説明（施設名、できることなど）を英語で書き写し、パンフレットを見せながらALTに伝える。

## 事例の概要

- 学習支援ソフトのファイル共有機能を使い、プレゼンテーションソフト（動画を貼り付けるためのデータ）を配布する。
- カメラ機能を活用し、各児童はプレ発表動画を撮影する。また、課題として配布されたプレゼンテーションソフトに動画を貼り付け、それらのファイルを共有し、互いの発表を視聴し合う。互いのよい点や課題点を交流し、次への目標を立てる。
- 立てた目標のもと、再度カメラ機能を使い、発表の様子を撮影し、プレゼンテーションソフトに貼り付け、教師に提出する。
- アンケート機能や表計算ソフトを使って、児童は振り返りを行い、学習支援ソフトを用いて、教師に提出する。教師は、児童の振り返りを表計算ソフトを用いて一覧にし、学級で共有する。そうすることで、児童の学習改善に役立てたり、データの蓄積を行ったりすることができる。

# 小学校6年・外国語科・This is my town.(3)話すこと[発表]ウ②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



カメラ機能で自分の発表を撮影  
→自分の発表の様子を客観的に見る機会を設定

## 【事例におけるICT活用の場面⑤】



表計算ソフト、アンケート機能に「振り返り」を記録、提出  
→学習改善・学びの蓄積

①ICT端末のカメラ機能を活用し、児童一人一人が自分の発表を撮影し、客観的に見る機会を設定することができる。

→複数児童が1台のICT端末を活用する場合より、時間短縮を図り、効率よく授業展開することが可能

②それぞれが撮影した動画をプレゼンテーションソフトに貼り付け、共有することで他の児童の発表の様子を視聴し、よい点や改善点を見付け、自分の発表に生かすことができる。

→各児童がそれぞれのICT端末を用いて、他の児童の動画を視聴することで、時間短縮を図り、効率よく授業展開が可能

③学習支援ソフトを使って提出された児童の動画を、学級で共有することで、静岡市の魅力を伝えるよいモデルを示すことができる。→情報の共有

④ICT端末で、再構成した自分の発表を隣の児童と共有し、その場で対面で意見交換をすることができる。

→画面越しのみならず、対面で意見交換する機会の設定により、児童が画面越しと対面でのやり取りの共通点や相違点に気付くとともに、両方のよさ、特色を実感。

⑤表計算ソフトに「振り返り」を記入することで、児童自身が継続的に蓄積されている自らの学びの過程を振り返り、その後の学習改善に生かすことができる。また、特定の内容をアンケート機能を用いて提出させた「振り返り」から自己調整の様子を読み取るとともに、その姿が授業で観察された粘り強い言語活動への取組として表れていたことを確認した上で、評価に生かすことができる。→学びの蓄積

【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト、カメラ機能、プレゼンテーションソフト、ファイル共有機能、表計算ソフト、アンケート機能